

平成 31 年 3 月 5 日

株式会社丸清

御中

京都市立西京高等学校附属中学校

校長 竹田 昌弘

## 企業(事業所)訪問のお礼

春寒の候、皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

先日の東京研修旅行における企業・事業所訪問ではたいへんお世話になり、ありがとうございました。この活動を通して、生徒たちは社会で働く皆様の真剣さや熱意、優しさに触れ、特に心の面で大きく成長したように感じます。このたび、皆様への感謝の思いを込め、総合的な学習の時間の授業の一環として、お礼状を作成いたしました。「訪問した後に考えたことも含めて書きなさい」という指導をいたしましたので、一般的なお礼状の形式から少し外れる部分がありますが、どうかご容赦ください。

今後は、訪問の事後学習として、来たる 3 月 8 日(金)に、本校の中学 2 年生を対象に、ポスターセッションの形式で企業訪問の報告会を行なう予定です。その報告会に向けて、企業訪問に関するレポートも作成しました。同封いたしましたので、ご一読いただければ幸いです。そのレポートの内容を見ると、今回の訪問を通して、自分たちが考えた「未来の社会」が、いかに不十分であったかを痛感するとともに、皆様が真摯に働くお姿に感銘を受けた生徒も多いように思います。私たち教員では決して語れない素晴らしいお話をたくさんしていただき、ただただ感謝の思いでいっぱいです。

このたびは忙しい時間を割いて貴重な体験をさせてくださったことに心より感謝いたします。ご親切にいろいろなことを教えてくださった皆様にも、どうぞよろしくお伝えください。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたしますとともに、貴所の益々のご発展をお祈り申し上げます。このたびは誠にありがとうございました。

拝啓 向春の候、貴社ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。  
私達も日々勉強に励み、高校へ向けたステップを着実に歩んでおります。

先日はお忙しいなかにも関わらず企業訪問を快く受け入れていただきありがとうございます。ごさいました。教室での授業やインターネット上では得ることのできないたくさん  
の経験ができました。建設途中の家や資材置き場など訪れたことのない空間を  
体感することができて、企業訪問が終わってから興奮がおさまりませんでした。  
また、どこに行っても木の独特な香りがして心地が良く、木はやはり最高だと  
思いました。頂いたひのきチップは勉強の休憩時にリラックサするため有効活用  
させてもらっています。

私達は三月八日に企業訪問で学んだことの交流としてポスターセッションを  
行います。そこで自分達なりに今回得た学びをまとめました。

私達は事前レポートに記したように現在の日本にとって空き家が大きな問題  
となっていることに着目しました。そこで古くから多くの人に人気のある温かしのつまった  
自然素材の木を基調とした住宅について探求しました。私達の予想では、自然素材  
を利用することは利点よりも問題点の方が多いため、表面的には魅力が豊富  
であるだけで本当は違うのではないかと感じていました。なぜなら、例えば木を使う  
場合、森林の伐採という環境破壊に手を染めています。また、国産木材は外国から  
輸入した木材に比べて高価だったり、手入れが難しく手間がかかったりということに

より、需要が低い、もしくは空き家になりやすいと考えていました。

ですがこの企業訪問を通して私達の予想は見当違いだったということが分かりました。天竜材は、伐採しないと反対に森林の環境にとって悪影響となる切りどきを迎えた木々を利用されていました。また、ただ伐採して利用するだけでなく、「植える」「育てる」「伐採する」「利用する」という循環型のサイクルを主として、森林の自然環境に配慮されていました。従来の仕組めとは異なる「産地直送システム」という流通の仕組めにより、金銭面では無駄を省けるうえに、時間の短縮や情報の可視化にもなります。ですが、やはり自然素材を利用して建てる時の費用は少し高くなりますが、長い目で見ると老朽化の心配が小さいため、結果として全体の費用ははるかに少なくなります。手入れについても「職人の箱」というセルフメンテナンス用の道具が提供されているため、住んでいる人が家を育てていくという温かい気持ちで行うことが出来ます。

つまり、自然素材の家は人にとっても環境にとっても救世主のような存在だと思われました。木の香りや居心地の良さは本当の木でしか味わうことが出来ません。自然素材は問題を点をほるかに上回る魅力を兼ね備えていると思われました。だからこそ、私達はその魅力を活かした「誰もが帰りたい、住みたい」と願うような家が空き家問題の解決に繋がると思われました。

これからの未来にとって「自然」が重要になると考えています。現代の利便性ばかり

に重きをおく世の中にとって憩いとなるのは、自然が持つ安らぎの力です。私達は  
はその力を絶やさずに伝えていきたいと思いました。私達には世の中を動かすことが  
できる程の力がまだありません。ですが、私達のこれからのためにどんなに影響音  
力が小さなことに對しても一生懸命頑張ります。

皆さまのますますのご活躍をお祈りいたしております。今回は本当にあり  
がとうございました。  
敬具

平成三十一年二月二十八日

京都市立西京高等学校附属中学校 三年

吉田 開

西村 光

松本 早織

長谷川 貴子

株式会社丸清 清水様

小川様





12班メンバー ・吉田 開 ・長谷川 貴子  
 ・西村 光 ・松本 早織

## テーマ

自然に配慮した建物の材料を知る。

### 現代の住宅に関する問題

#### 森林の伐採による環境破壊



#### 木材の地産地消

- ・ 運送コストの削減
- ・ 運送にかかる時間の削減
- ・ 国内での林業が活発化

自然環境の保全につながる。

#### 空き家の増加

今のまま増え続けると…

15年後には **3軒に一軒** が空き家！！

住居が老朽化

でも取り壊しの費用、さらに  
 増える税金は払いたくない

放置

セルフメンテナンスなどを行うことで  
長期的に 利用できるようにしていく。

#### 国際交流 ～東京経済大学～

“When should children become independent from their parents and live alone?”

「子供はいつ親離れをして、一人暮らしをするべきか？」

## まとめ

- ・ 自然素材の住宅は長期的に利用できるため空き家問題の解消につながる。
- ・ FSC 認証材を使うことが森林の保全につながる。

## テーマ：自然に配慮した建物の材料を知る。

(12 班)

班長：吉田 開 (3 年 B 組 39 番)

西村 光 (3 年 B 組 29 番)

松本 早織 (3 年 B 組 37 番)

長谷川 貴子 (3 年 C 組 25 番)

### 1. 訪問企業 **株式会社 丸清** 分野( 建築 )

#### ○テーマの具体化

住宅には様々な建材が使われており、現代では多種多様な建築物を目にすることができる。コンクリートやセメント、木材やレンガなどだ。その中でも、人々から人気を集めるのは自然素材を利用した建築物だ。自然素材をふんだんに使った家、というのは“温かみのある家”や“柔らかな雰囲気がある”といった印象がある。しかし、量を考えずに人間の好きなように自然素材を利用してしまっただけではそれが環境破壊、そして地球温暖化につながってしまい、大きな問題となる。

また、もう一つの大きな問題として、近い将来今のままでは日本の全住宅の三分之一が空き家になってしまう、ということがある。つまり、住宅街で 3 軒に 1 軒は誰も住んでいない状態になってしまうかもしれないのだ。現在のように新築をただ乱立させるだけでは現状はよくはならない。「住宅」というものを将来に渡って持続させるには、住宅を資産となりうるようにしていかなければならないのだ。そのためには当然住宅に人々を惹きつける魅力が必要であり、その面でも自然素材の家は重要な役割を果たしている。自然を守り、なおかつ住宅を将来へとつなぐために、自然に配慮した建物の材料を知り、それを活かしていけるようにする。

#### ○その背景

住宅の建材には様々な種類がある。そのすべてにはメリット・デメリットがあり、“自分がどんな家に住みたいのか”という理想に合わせて選ぶ必要がある。自然素材の場合はその素材感がメリットの一つだろう。既製品の合板フローリングなどは、夏場など湿度の高い季節は素足ではペタペタ吸い付くような感触になり、冬場は冷たさが足元から感じることがある。しかし、自然素材である無垢材のフローリングでは季節に左右されず素足でも心地よく歩くことができる。自然素材の調湿作用や清浄作用により、室内の湿度の管理や臭いの吸収がある程度行うことができるのだ。このような効果により“温かみのある家”や“柔らかな雰囲気がある”といった印象が生まれるのだろう。

また、住宅が資産となりうる条件の一つ、内装は自然を基調としたものがやはり最も魅

力的なようだ。内装デザイン人気ランキング（2016年）でも、ナチュラルな内装が一位を飾っており、「子供の住環境として安心できる」「木に囲まれた生活は居心地がいい」など、自然素材を使った建築を心地よいと考える人は多い。先述のような“温かみのある家”や“柔らかな雰囲気がある”といった印象は多くの人が感じているものなのだ。しかし、自然破壊が進むこの時代でむやみに自然素材を使っただけではいけないのも事実だ。地球では一年で約520万ヘクタールの森林が減少しているし、それは直接的に地球温暖化へとつながっている。私たちの生活がより豊かになるようにしている今の行動が、自ら首をしめていることになっているのだ。木材は必要不可欠な資源のため、今すぐ使用をやめることはできない。特に日本人は昔からの伝統などもあるのかもしれないが、木材の使用量が多い。そのため、仕方がないという理由で森林の伐採を行い、森林破壊に手を染めている。一度森林が破壊されてしまえば、完全な再生には100年かかるとも言われている。今から取り組んでも、完全に木が育ち森林が回復する前に地球上の森林がこのままではなくなってしまう。また、一度伐採や環境汚染が行われたことにより、植物が失われた土地は、森としての再生能力を失っていることが多い。つまり、そう簡単に森林を取り戻すことはできないのだ。しかし、このことに対する危機感が希薄なのが現状であり、大きな問題点なのだ。自然に配慮し、共存していくことこそが今最も重要なことなのである。ほかにも、森林を守るなどの行為以外にも、自宅の庭に植物を植えるなどの各家庭で取り組めることがあるはずだ。だから、建築会社が建築資材にだけ気を使うのではなく、庭などの直接的な自然の回復にも尽力すべきだと思う。

また、空き家問題に関しては、現時点では空き家になった住宅をとりこわしたり、住宅用途以外に有効に活用されたりなどしていかなければ2033年、空き家は約2150万戸、空き家率は総住宅数の約30.2%に達すると予測されている。日本人の高齢化はどんどん進行し、住んでいる高齢者が亡くなってしまった場合はその高齢者の住宅は相続人がいなければ空き家になってしまう。また、高齢者が長年居住していた家の多くは老朽化している場合が多いため、そのままでは賃貸・売却ができず、資産価値がなくなった「負資産」となってしまう。そういう物件が放置されることで空き家は増えていくのだが、そうならないためには住宅が人々の欲しがる“資産”となる必要がある。住宅単体だけではなく、その立地やまちの様子なども含め、長期的にその住宅について考えなくてはならないのだ。

### ○企業訪問で質問したいこと

1. 家づくりの依頼を受け、設計などについて相談したことは内装や住宅環境にどのようにつながっていくのか。また、家づくりの依頼・相談にはどれくらいの日数を要するのか。  
→できるだけ相談内容に忠実に、快適に暮らせるような配慮をしていく。
2. 土地探しでアドバイスをされるのはどのような視点からなのか、またその中でどれに重きを置いているのか。

→自然とのバランスを常に安定させられるようにし、自然と共存していくという考え方で行動する。

## ○訪問する企業について

### ①【企業名：株式会社 丸清】

#### 1. 会社概要

- ・設立年月日：1980年（昭和55年）10月
- ・所在地：〒189-0013  
東京都東村山市栄町1-3-60 清水ビル2F
- ・TEL：042-391-2489
- ・訪問アクセス：西武新宿線久米川駅から徒歩2分

#### 2. 事業内容

・仕事：注文住宅・増改築、分譲住宅、不動産売買、不動産賃貸、リフォーム、その他関連業務

スローガン：森と、街と、暮らしを彩る

企業理念：一、産地とお客様を結び、豊かな社会を次世代につなげていきます。

一、お客様の健やかな暮らしを真摯に支えています。

基本理念：

- ①構造…高品質な天竜材と確実な設計で安心・安全な構造を実現しています。
- ②素材…身体にやさしい自然素材を適材適所に使用して、人にやさしく、耐久性の高い住まいづくりに取り組んでいます。
- ③空間デザイン…実用性や生活動線の確保はもちろんですが、デザイン性に優れた美しい空間デザインを心掛けています。
- ④検査体制…社内検査はもちろんのこと、第三者機関によるチェックで、安心・安全の確かな住まいをお引き渡しします。
- ⑤アフターサービス…住みはじめてからが本当のお付き合い。定期的な点検や保守・改修、リフォームまで、住まいに関するご相談、ご要望にお応えします。

・HPアドレス：<https://www.e-marusei.jp/company/>



## ○企業訪問を通して

今回の企業訪問では製材された木材置き場（丸志木材）、実際の建築途中現場、そして完成された建築物を見学させてもらった。丸志木材では主にこれからの建築資材などの運搬について話を伺った。丸清では資材の産地直送体制をとっているが、一般的な資材の流通はさまざまな市場・工場を通される。運送業界で人手不足が問題となっている今、産地直送体制は理想的なものかと思っていたけれど、現実的には厳しく、むしろ共配化などの考え方で効率よく資材を運送することも大切だと分かった。また、建築途中現場では実際に使われる資材の活用法、間取りに応じた建材の選び方や間取りの工夫について知ることができた。そして、実際に現場を見てみて、ひとつの家が完成するまでにはさまざまな分野の数多くの職人さんが関わっているということが実感できた。木材を加工する人だけでなく電気工事士の方、水道工事の方などさまざまな職業の方がいて、誰かひとりでも欠けては“家作り”は成り立たず、だからこそすべての分野において人材を失わないようにつなげていくことが大切だと分かった。また、これから発展していくであろうさまざまな技術（さまざまな作業の自動化、AIの導入、運送技術の発達など）もそれぞれの分野で活かしていくことで全体的にも発展していくと思う。

### <質問に対する回答>

1. 家づくりの依頼を受け、設計などについて相談したことは内装や住宅環境にどのようなつながっていくのか。また、家づくりの依頼・相談にはどれくらいの日数を要するのか。  
→設計図だけでなく専用のアプリを使って3Dの立体的な図面を作り、想像しやすいようにしている。またその土地ごとの特性によって窓の位置やベランダの配置などを決めている。
2. 土地探しでアドバイスをされるのはどのような視点からなのか、またその中でどれに重きを置いているのか。  
→お客様の家族構成や職場、その土地の将来性や周りの環境などから。それぞれの重要度は家庭によって異なるし、重きを置く、というよりは総合的に見て判断する。
5. セルフメンテナンスは自然素材の家だからこそだと思いますが、そうでない家ではそういったメンテナンスは必要ないのか。  
→メンテナンスをしていくことで住宅の価値を保つことにもつながるし、自然素材でない家であっても必要。
8. 木材の産地直送システムは今後普及していくのか。  
→現実的には厳しく、今後の課題となっていくのは運送コストの削減などの問題点だろう
9. 近年問題になっている空き屋問題にはどのように対処していくべきだと考えておられるのか。  
→セルフメンテナンスや定期点検など、住宅を長期的に利用できるような工夫をしていけばいいのではないかと。
10. バリアフリーと自然素材を使った建築の両立はどのようにしていくのか。  
→もともとと住む人に適した家の構造になるようにしているので自然素材を使うことでバリ

アフリーができなくなる、ということではない。

11. 自然素材の家がもっと需要が高まった時、自然に配慮するという観点においてどういう風に行動していくのがベストなのか。

→FSC 認証材という、適切な森林管理のもとで育てられた材木を使う、つまり「植える」「育てる」「伐採する」「使う」というサイクルを作ることによって林業者の支援、そしてまわりまわって自然環境の保全につなげることができる。

<考察>

これからの住宅の建設において自然素材の果たす役割とは、住んでいる人のメンテナンスなどの手入れ・管理を含めて住宅を持続的・長期的に利用できるようにしていくことだと思う。「自然素材の家」というのはイメージとして「温かみがある」「住みやすい・心地よい」などのいいイメージと、それに反して木材が反ってしまう、ひび割れてしまうなどの「耐久性が低い」また「値段が高い」「扱いが難しい」などの悪いイメージがある。しかし、いわゆる新建材と呼ばれるようなビニルクロスやタイル等の建材に比べるとしっかりと加工した木材は耐久性が高い。それは長い目でみるとコスパが良いということにもなる。また、自然素材の家は「成長する」ので、それに合わせて住んでいる人がセルフメンテナンスをする、そして定期的な点検やライフスタイルに合わせた住宅のリフォームは住宅の寿命を延ばすことにもつながる。現在社会的な問題となっている空き家問題に対して、住宅の寿命を延ばすということは大きな意味を持つ。根本的な空き家問題として、一番問題になっているのが「住宅が老朽化している→でも建物を取り壊すとその費用、そして土地にかかる税金が増えてしまう→だから放置している」という状況だ。住宅の老朽化によって住宅としての価値が下がってしまっているということである。これにより賃貸や住宅としての売却ができなくなってしまう、放置状態の空き家ができる。放置状態の空き家は防犯上、また衛生上良くないうえ近隣の住民にも被害が出る。だからこそ住宅の寿命を延ばし、住宅としての価値を保つことが必要なのだと思う。また、普段生活する場面においても自然素材というのは吸水性や化学物質の吸い取りなどに優れていたり住みやすい家を実現してくれるものでもある。自然素材の家というのは空き家問題の解決の一つの糸口になってくれるのだと思う。また、使う自然素材に関しても、FSC 認証材など適切に管理が行われている森林のものを使うことで林業者の支援にもつながっていくしそれは自然環境をよりよい状態へと保つことにつながる。人工林に関しては手入れをしなければコリの荒廃につながってしまうし、「植える」「育てる」「伐採する」「使う」というサイクルは未来へと森をつなげていくうえで非常に重要なことになってくるのだ。

このように、自然素材の果たす役割はとても大きなものである。一概に自然素材の家でなければならないということとは言えないけれど、現状の様々な問題を少しずつ解決していくために必要なことだと思う。だからこそそういったことを広めていき実現していくことが私たちの未来における役割であると思う。